

事業の基礎情報

実施主体	立山町
事業実施地域	立山町
共創の類型	官民共創 ・ 他分野共創
他分野共創の類型	医療・介護・福祉 ・ 教育・スポーツ・文化 ・ 地域・移住 ・ 観光・まちづくり
共創パートナー	立山町、丸新志鷹建設(株)、芦峠寺自治会、システム開発・コンサルティング事業者、(福)立山町社会福祉協議会、富山県立山博物館、(一社)立山町観光協会、立山黒部貫光(株)、アルペン交通(株)、IT事業者
運行形態	立山町営バス芦峠寺線のデマンド化
運行主体	アルペン交通株式会社

取組の概要

(現状の地域課題と事業目的)

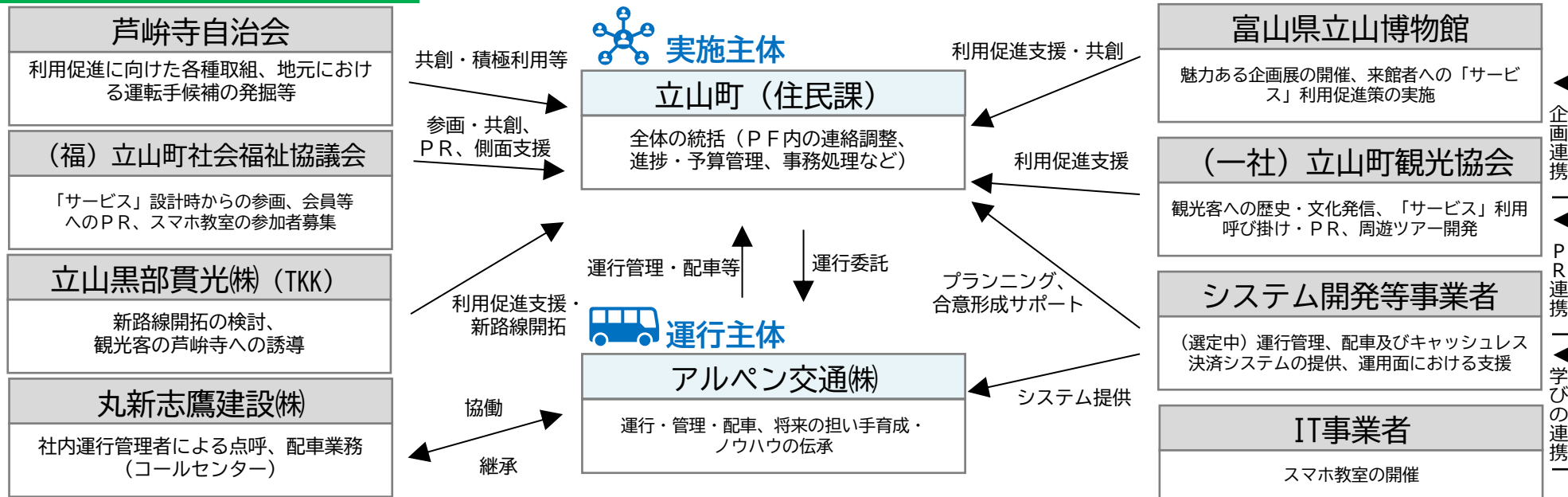
立山町営バス芦峠寺線は、利用者の減少、運行経費増等が課題となっていた中、令和6年度よりアルペン交通(株)が受託することとなり、運行経費は大幅に増加することとなった。町の財政事情からも、現在と同レベルの運行を継続することは困難であり、持続可能で利便性の高いデジタルを活用した「新たな交通サービス」の導入が今まさに、求められている。また、「観光」の面では、令和6年度に始動する黒部宇奈月キャニオンルートや立山博物館を中核とした文化観光拠点計画の実施など、当事業の追い風となる要素が豊富に存在する。上記を踏まえ、観光客の需要を満たすとともに、地元の自治会や企業などを巻き込むことで当事者意識と持続可能性を高め、実装への更なる追い風とし、幅広い関係者と共創する地域公共交通の「リ・デザイン」に挑戦する。

(事業の概要)

当面の間、事業主体となる町とその受託者であるアルペン交通(株)、将来的に事業を担う丸新志鷹建設(株)と芦峠寺自治会、システム開発事業者とそのフォローを担うIT事業者や(福)立山町社会福祉協議会、観光客の誘客トリガーとなる富山県立山博物館や(一社)立山町観光協会、立山黒部貫光(株)が連携・協働し、デジタル活用による立山町営バス芦峠寺線のデマンド化を行うことにより、生活者の「移動の自由」を保障するとともに、来訪者増加による地区の賑わいづくりと持続可能な交通体系の構築の両立を目指す。

芦峠寺線「リ・デザイン」共創プラットフォーム

事業の全体像・共創の仕組み



取組の詳細

（地域の関係者との連携・協働）

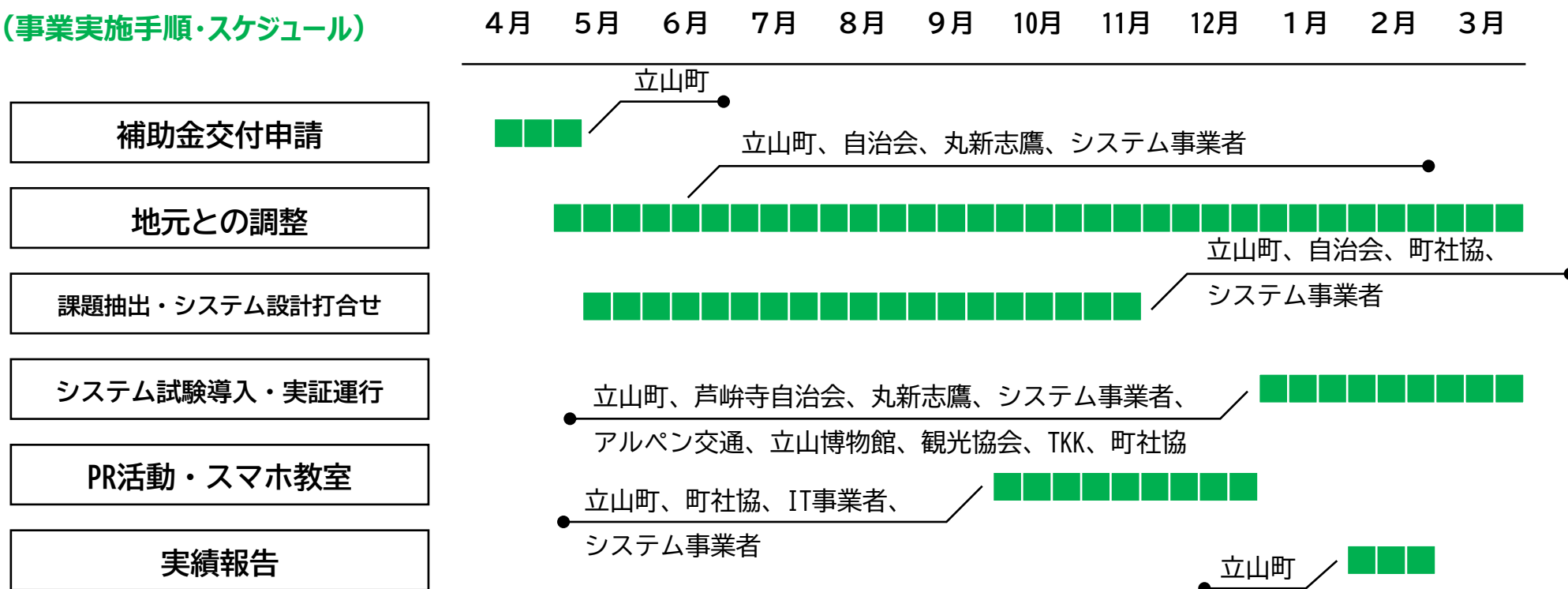
立山町が全体統括を行い、受託先のアルペン交通株がデマンド化した芦峠寺線の運行を担う。運行管理・配車に要する負担をシステム導入により軽減しつつ、システム開発・コンサルティング事業者からの運営面での支援を受けながら、地元への移行を視野に、アルペン交通株と丸新志鷹建設株が連携・協働し継承に取り組む。また、地元の観光協会、立山博物館、立山黒部貫光との連携により、観光客をターゲットとした利用促進の取組を重層的に行うとともに、地元の当事者意識を高めつつ利用者増加につなげ、一定の収入を確保することにより、持続可能な交通体系の構築に挑戦する。これに加え、将来を見据えた路線開拓の検討を並行して行っていく。

（実証事業により見込まれる効果）

- ・芦峠寺線利用者の増加（目標：4,000人。前年度比10%増加） ▶ 歩数増加による健康増進効果
- ・芦峠寺に訪問する観光客の増加とそれに伴う芦峠寺の賑わい創出効果
- ・利用者のシステムによる予約数（目標：800件／年） ▶ 高齢者のデジタルデバインド解消の同時達成
- ・地元における雇用の創出、経済効果

取組の詳細

(事業実施手順・スケジュール)



(補助事業実施後の予定)

- 令和7年1月から立山町営バス芦峠寺線のデマンド化の実証運行を行うが、観光客がもたらす影響が限定的となる可能性があることから、4月以降も一定期間実証運行を継続し、その結果を踏まえ本格運行への移行の可否を検討する。
- 本格運行となった場合の運転資金については、当面の間、町からの補助金とし、年度ごとの欠損額分で精算する。また、この場合の運輸収入については、立山黒部アルペンルートや芦峠寺の持つ歴史・文化を一つのコンテンツとして魅力を高める事業と連携することにより、観光客へのサービス利用を訴求し、利用者のパイを増やすことにより一定の金額を確保し、欠損額の低減につなげる。
- 持続可能な運行となるよう、予約面や運行管理における負担をデジタルの力で軽減するとともに、地元を巻き込んだ運転手確保の取組を進める。また、新路線開拓の可能性を引き続き調査研究していく。